

宇宙分野における協力の可能性

アゼルバイジャンは、自国衛星を 3 台保有し、衛星利用サービスにも前向きな、この地域における宇宙開発・研究に最も積極的な国の一つです。日本との連携可能性も含めた今後の展望について、アゼルコスモス(アゼルバイジャンの宇宙開発・研究機関、国有企業)のナビエフ総裁から話を伺いました。

「当国ではソ連時代に宇宙分野が発展しましたが、ソ連崩壊・独立後に露との連携を失い、当時の経済混乱もあり、宇宙分野の専門家が海外に流出したため、宇宙分野の取組をゼロから再スタートせざるを得ませんでした。その後 2010 年代に 3 つの衛星(通信衛星 Azerspace-1,2、地球観測衛星 Azersky)を保有するに至り、衛星の顧客の中には日本企業もあります。本年2月にはインフォステラ社と地上局連携契約を締結しました。」

「当社は、各国の宇宙開発・研究機関、例えばフランス国立宇宙研究センターとフレームワーク合意を結んでいるので、日本の JAXA と連携を深めたいと望んでいます。『だいち』、『しきさい』を始めとする JAXA の取組に学び、地球観測研究センターと訓練、研究開発面における協力ができればと思います。同時に、日本企業との研究開発や技術者育成などに係る連携も模索しています。」

「今次ナゴルノ・カラバフ紛争では衛星を保有していることの重要性が発揮されました。当社は、紛争により解放された地域の復興に関する政府タスクフォースのメンバーとなり、環境、農業、都市設計、道路・鉄道建設に係る測量等の任務に当たることとなりました。ここでも日本企業の技術が必要とされます。」

「現衛星の更新を含め、今後幾つかの衛星を打ち上げることとなります。次の衛星やローンチ・サービスの企業選定はまだ開始していませんが、日本企業からの提案、設計段階からの参画も歓迎します。」

(以上)